

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第七小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。 (※夏季休業期間の変更に伴う教育課程編成の工夫を含む)	A	校務分掌組織を改編し、各分掌・各担当で協働して学校運営を行ってきた。会議・集会で共通理解を図り、共通行動を行ってきた。組織体としての学校運営がなされた。毎月の学校・学年便り、ホームページ、メール等で学校の情報を伝えている。学校メールによる緊急連絡も、ほぼ全家庭が登録し機能している。教育活動への理解と協力を得るため、保護者用シラバス(教育計画)を全家庭に配付している。	A	・学校運営向上のための意見・向上案・対応策が透明化されているのが素晴らしい。七小グラウンドデザインにある教育に関する3つの達成目標をすべて上回っている事が素晴らしい。地域住民・卒業生保護者として誇らしく思う。 ・会議・集会で共通理解を図り、共通行動を行ってきたことから、学校運営に協働して取り組んでいることがわかる。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	A	毎月の安全点検をはじめ、日常点検など危険箇所の修繕を速やかに対応して安全な環境整備を行っている。安全主任を中心に火災・地震の避難訓練、不審者対応訓練、引渡訓練、予告なしの緊急地震速報訓練等、児童の安全意識を多方面から育成してきた。今年度は弾道ミサイルが落下する可能性がある場合に上るべき行動についてのマニュアルを作成し、有事の際に共通行動ができるようにした。	A	・危機管理マニュアルがしっかりできており、用具の設置もされている。 ・毎月の安全点検・日常点検などにより、危険箇所の修繕を速やかに対応し安全な環境整備を行っている。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	A	6年全国学力・学習状況調査のA(知識)問題の正答率においては、国語・算数ともに全国比・県比で上回ることができた。学力の基礎基本の習得、それを土台として思考力・判断力・表現力を伸ばす学習活動を各学年で実施してきた。各学年で、まずは実態を把握することから始め、その上で児童の課題を上げ、その解決に向け策を練り、学力向上のための実践を行ってきた。算数少人数加配を4年に配置し、学習形態を工夫しながら、興味別・課題別等様々な学習を実施してきた。	A	・学力調査の結果が良いのは、教員の努力のたまものだと思う。 ・全国学力・学習状況調査の結果、全国比・県比で問題の正答率が大きく上回っていることから基礎的・基本的な内容を理解させていると考える。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	6年全国学力・学習状況調査のB(活用)問題の正答率においては、国語・算数ともに、全国比・県比で上回ることができた。4～6年生対象の埼玉県学力・学習状況調査でも、県平均を上回ることができた。各学級で継続的に思考力を伸ばす授業を展開してきた成果である。校内研修の充実も県を上回った要因であると考えられる。	A	・算数少人数教室など、有しているソフトとハードを活用している。 ・NO3に加えて、大きく上回る結果より、各学級で継続的に授業改善してきたことがうかがえる。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	A	学校長の進める「七小おあしす運動(挨拶・外遊び・廊下歩行・清掃)」を児童会・代表委員会と連携しながら、その浸透に組織で取り組んできた。特に外遊びに関しては児童に大きく浸透した。また「七小よい子のやくそく」をもとに、授業規律の確立に努めてきた。児童へのきめ細かな指導に向け、また要配慮児童のニーズに応じた指導に向け、低学年補助教員・スクールサポーター・学習支援員を配置し、指導・支援を行ってきた。学年・クラスで学習ルールの徹底を図ってきた。	A	・教職員一丸となって推進しているのが、数字からわかる。そのことを踏まえ、児童・保護者の数字に表れるよう期待する。 ・児童会、代表委員会と連携しながら推進している。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	生徒指導主任を中心に、月1回の部会で各学年の情報を共有し、対応策を考え、課題の個・集団には学校として組織で対応してきた。年2回の教育相談研修での報告や朝の職員集会も活用し、共通理解と共通行動を行ってきた。県施策「規律ある態度の育成」の効果検証では、県目標80%に対して全体で平均89.4%を達成することができた。学習の基本は規律にあることを確認し、改善を図ってきた。	A	・七小での規律の醸成のおかげで、中学生はとても落ち着いた生徒が多い。 ・年間目標の取組で挨拶等の評価が良好とのことですが、挨拶運動等、家庭・地域と連携、協力を深めて更に向上させたい。継続して取り組んでもらいたい。 ・学習の基本は規律にあることを確認し、改善を図ってきたことで県目標を超えて達成することができている。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	運動環境の整備・授業の工夫等に加え、体育的活動(マラソン・なわとび等)を年間を通して取り組んできた。体育授業の充実のため、体育部・研修主任を中心に毎朝ライン引きを行うなど、体育環境の整備をすすめてきた。持久走記録会も保護者公開として実施した。朝登校後、運動場を走る児童が増え、意欲化が図られた。また、2月の体育朝会でクラス長縄に取り組み、休み時間に長縄に取り組み児童が多く見られた。運動好きな児童の育成が図られた。	A	・運動好きな児童が増えた事は、学校の仕組み作りや教員の熱意だと感じる。 ・運動環境の整備、授業の工夫等により、運動好きな児童の育成に成功している。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	A	体育科の研究実践を継続し、運動好きな児童の育成と教員の体育授業力の向上に努んできた。研修主任を中心に、掲示物、体育カード、家庭での体力アップカードの活用等、児童の意欲を高める資料も作成し、体育における七小スタンダードの確立と浸透に向けて努力してきた。体育部を中心に、体育行事の充実や体力向上に努めてきた。新体力テストの総合評価A-Cの児童の割合は、県目標の80%に対して88.0%の数値を出すことができた。	A	・運動が苦手な児童のフォローを引き続き行って欲しい。 ・運動環境の整備、授業の工夫等により、運動好きな児童の育成に成功している。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	A	毎学期始めと終わりに授業参観・懇談会を、春と秋に学校公開を、年度当初に地域訪問・個人面談を実施し、保護者との連携を図ってきた。保育園・幼稚園、地域の高齢者との交流、博物館、田んぼ、環境・音楽・文化の専門家などの講話等、各学年で地域の教育力を生かした人材活用と豊かな体験活動を充実させた。引き続き、地域の人材確保と活用を行ってきたい。	A	・学力とはちがう人間力を磨くためにも学校外部との交流が重要だと思う。 ・先生方の地域や保護者との連携の関係性を深めていってほしい。 ・学校公開をしていること、また、交流会等を行っている事から、地域や保護者の方々との連携がとれていると考えている。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	PTAを中心に、児童の安全指導・健全育成を推進してきた。除草作業・落ち葉掃き等の環境整備、通学班、週1回の校外パトロール等の防犯・安全活動、資源回収のリサイクル活動等で教育活動を支援してきた。おやじの会の会員数も増え、活動も更に充実してきた。	A	・PTAとしての活動が減少傾向にあることを危惧している。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満